

青年海外協力隊サモアOB会

サモアを知りたいあなたの
情報マガジン

第18号

2018 May

今回もサモア情報盛りだくさん!

我が心のふるさと
サモア!



今回の目玉記事

聖地駒ヶ根だより
サモア講座
蘇る百年前のサモア

心の故郷へタイムトリップ

サモアの情報マガジン
【青年海外協力隊サモアOB会】





若手主体のグロフェス2017



2017年9月31日・10月1日の両日、グロフェスタJAPANの開催が、お台場海浜公園にて行われ、協力がかわる政府機関やNGO企業などが一同に会する国内最大級の国際協力イベントです。サモアではお馴染みのお菓子であるパンケーキ（揚げドーナツのようなもの）を販売しました。

私は、10月1日にボランティアとして参加しました。今回サモアOB会としてメープルやチョコ、抹茶など様々なフレーバーを用意した特別バージョンです。私自身も試食しました。

が、控えめに、美味しくて、自慢の一品として、この味を知った人から「美味だし、パンケケを通してサモアの魅力を伝えることができたのではないかと感じます。

日本のスピード感に身をまかせて日常を過ごしていると、サモアでの暮らしがどこか遠い昔のように感じ寂しくなることもあります。そのような中で、サモアを愛している「チームサモア」の皆さんと語り合いつながりの今回のボランティアは大変楽しく、有意義なひと時を過ごすことができました。

佐藤晴花
平成27年度8次隊 小学校教育



今年度も無事に会報発行ができたこと嬉しく思います。活動も若い方が随分と参加してくれるようになっていきます。また今年度は新事業としてOB会カレンダーを使用して教育関係業界で従事しているOB・OGに国際協力やサモアのことを知ってもらおう勤務している学校で授業をお願いしました。既に数校で実績を上げています。将来の国際協力の担い手の発掘・育成につながればと思います。一方残念なことにはこれまで受給できていた補助金の審査が厳しくなったことから十分な資金を確保できない事態に陥っており、やむなく事業の見直しを図られています。OB会としても経費の節減及を図ると共に収入の増加を確保するため努力をしております。引き続き皆様方にはご支援・ご協力の程お願い申し上げます。

大塚一雄 昭和63年3次隊 SE

祝！会報発行

One for all. All for Samoa.



意外な出合いが待ってる



悲しくオヤジ
3人店番中



意外な出合い
が待っているイベ
ントです。右の写
真は役得です。

初代店長
久しぶりの登場
です。

2017年協力隊まつりは4月23、24日の両日で開かれ、サモアOB会では初日の23日のみに参加。しかし例年は展示していた写真やパネルが直前になって用意できなくなり、少しばかりの民芸品やラバラバを陳列するのみという事態に陥ってしまいました。また昨年は同日に14の壮行会を開くなど、チームサモアの麗若き女子たちも集まって盛り上がりましたが、今年は大塚、清水と澤井のみの参加という、少し寂しいブースの顔触れ。とはいえ、幸運にも次期サモア調整員として派遣予定の中笠さんにお会いできたことや、シニアボランティア募集説明会に来ていた11613在庫管理の種田OBと再会することができ、協力隊まつりならでの旧交を温められる良い機会になりました。

澤井慶太 平成6年度2次隊 音楽

ついにサモア化した壮行会

久しぶりにサモア人のTinoさんが参加してくれました。派遣前にサモア人に会えるなんてラッキー！



新隊員とサモア人

2017年度1次隊



2017-1次隊壮行会



お決まりの場所での写真

きやほー きやほほ〜

今年度は2回壮行会を開催しました。今回は久しぶりにサモア人の女性のTinoさんが参加してくれました。音楽隊員の澤井副会長に合わせ参加者が歌えや踊れの大宴会となり会場はまさにサモアになってしまいました。さて、最近では自分の子供世代の流れを感じます。その中で多くの日本の若者が途上国に旅立とうとしています。その中でも明確にテロの標的となつて



熱唱する澤井副会長

SE 大塚一雄 昭和63年度3次隊
おります。このためどこの代です。一方サモアではテロの心配は比較的低いかと思いますが、一般犯罪や感染症、さらには交通事故などのリスクはあります。常夏のサモアも途上国の一つです。くれぐれもくれぐれも用心を怠らせず2年間サモアのために貢献してもらえればと思います。そして2年後、胸を張って活動報告をしてもらいたいものです。元気に行ってらっしゃい！



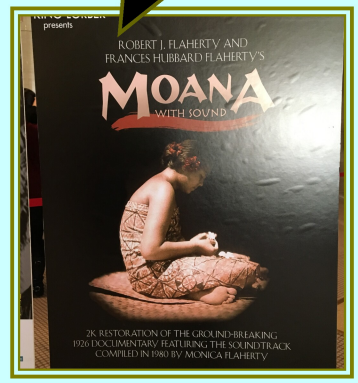
2016-4次隊壮行会

2016年度4次隊



百年前のサモア蘇る Moana

映像的には現在と比較してもそれほど大きな違いはなく、何となく納得できるものでしたが、驚きなのは魚を生で食していました。これには驚いた。また女性は上半身裸でした♥



当日お会いした方々

11月26日、第18回東京フィルムフェスティバルで特別公開された映画「モアナ」を鑑賞した。「モアナ」というと、同名のディズニー映画を思い出す。そのモアナと家族や男性。そのモアナと家族やモアナがどのよう生きているのかを知ることができると言える。モアナが住んでいる村は、サバイバル島のサフネ村。サフネ村といえ、シナと「うなぎ」伝説の舞台になった村。今でもその伝説に出ている泉があり、任期中に同僚からいろいろと話を聞いた思い出が蘇る。出てくる場面は、タロイモやココナッツを収穫するところ、漁に出て魚を収穫するところ、成人としての証・タトゥーを入れているところ、踊りをしているところ、畏れをしかけてイノシシを捕まえるところ、タパを作っているところなど。久しぶりのサモア語を思い出しな

がらの鑑賞。特に印象的だったのは、無邪気で純粋で本在と全く変わりもないこと。そして、百年以上経過した今と生活様式もあまり変わっていないように感じられた。モアナ人は伝統を良く守っていることを改めて感じた。映画鑑賞後は、サモアOB会関係者の方で懇親会が開かれた。個人的には、ホームステイ先のサモア人の妹がサモア大学（NUS）在学中に仲良くしていたことがとても嬉しかった。任期中に何度もKさんのお話を伺った。と万感の想い。こうやって以前にOBの方々からサモア人の良い関係を築いてくださったっていいおかげで、私も任期中にサモアの人たちと円滑に楽しく過ごせたということを改めて感じ、良い会となりました。

野川翔子
平成27-1次隊 小学校教育

情報技術大臣夕食会



左から在京サモア大使、大臣、OBメンバー（2人）

11月9日、来日中のサモアの通信・情報技術大臣のアファマサガ氏を迎えての夕食会がホテルニューオータニで行われた。国際協力推進一般財団法人 大臣は日本の情報技術等の視察のために1週間の予定で日本を訪れている。

当日は50人ほどの参加者がおり、一般財団法人とか政府関係者が多かったようだ。サモア関係者は、大使館関係者とサモアOB会2名（私、澤井さん）とPIの大石元社長夫人だけか？。サモアの衣装を持って行ったが、今回は皆さんスーツ着用だったので着替えは断念。大臣と直接話す機会もあり、自分のサモア体験を話すと、彼は私が住んでいたレウルモエガのすぐ近くの村出身であることがわかる。

村のマタイとか学校の先生等の共通の知人が多く、レウルモエガ話で盛り上がる。また、当然とはいえ、サモアのIT業界を牛耳っている大魔王（H9-13：佐久間氏）



挨拶をするアファマサガ大臣

清水幹雄 平成6年度3次 数学教師

とも知り合いで、大魔王の話でも盛り上がる。最後に大臣からの締めくろびと日本との関係が大切と感じていく内容であった。アファマサガ大臣、今度はサモアで大魔王と一緒に飲みましよう。（3年後か？）

地道なOB会活動の成果として対外的な認知度は高く、サモアから要人が来る際には声をかけていただけようになっています。前回は元副首相でした。嬉しい限りです。



2017年6月2日金曜日に、サモアの母ことヒデさんの歓迎会と来月からイギリスの大学院に留学する平成26年2次隊PCインストラクターの駒橋さんの壮行会が、東京都中央区新橋で盛大に行われました。

私事ではありますが、サモアOB会役員でありながら、いつもは夕方から別の仕事があるため、ヒデさんの歓迎会、協力隊隊員及びシニアボランティアの壮行会にはほとんど参加することができませんでしたが、今回久しぶりに参加することができ、サモアで活動していたと言った縁で、世を超えた方々といういろいろな話をすることができました。

ヒデさんとは、Facebookで友達になって頂いておりますので、オーストラリアでの生活の様子はある程度把握していたものの、直接ヒデさんにお目にかかるのは、2015年の忘年会以来1年半振りでした。ヒデさんは、いつもと変わらずお元気でしたと言いたいところですが、今回、日本に帰国されてから体調を崩されてしまい、全国津々浦々で行われる歓迎会や旅行をキャンセルされたという残念な話を聞きました。

ヒデさん・駒ちゃん歓送迎会

サモアから帰国した多くの隊員は帰国後国際協力の道に進みたいと思っています。しかしながら様々な理由でなかなかそれを実現するのは難しい状況です。その中で留学を決意した駒ちゃんあんたは偉い！



新井克芳 昭和63年度1次隊 電話交換器

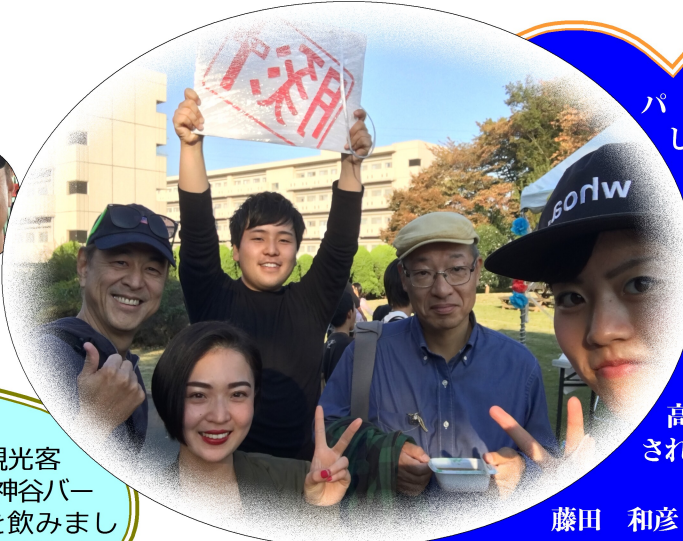
念がっておられました。幸いサモアOB会主催の歓迎会には、本調子ではなかったものの、出席頂くことができうれしく思っております。サモアに派遣されていた時期は異なりますが、南国の島サモアで生活していたということ、同じ釜の飯を食ったような（古い表現ですが）親近感があり、若男女世代を超えて、派遣当時のサモアにタイムスリップした素敵な時間を過ごすことができました。これもサモアの母のヒデさんの一時帰国のおかげと大変感謝しております。びっくりしたのは、隣席頂いた一林さんのお住まいが週末に勤務している某家電量販店で、数年前に私が一林さんに掃除機を販売していたと思われることです。更に、一林さんは、週に1回、介護中の父の住む実家の駅にある大学に勤務されていることでした。一林さんとは、以前もお話させて頂いておりましたが、世の中広いようで狭いなあと改めて痛感しました。

一方、駒橋さんは、昨年6月29日に帰国してわずか1年。サモアでの経験を生かし、更なるステップアップのために、難関を突破して留学の切符を手に入れました。駒橋さんのパワーと決断、自分の目的に向かって邁進する意志の強さには、本当に頭が下がります。健康に十分に気をつけて頂き、1年後に更に成長した駒橋さんにお会いできることを楽しみにしております。

お礼参りに行っちゃいました（麗○大）



帰り道足を伸ばして外国人観光客で賑わう浅草に行き神谷バーで「電気ブラン」を飲みました。名前のとおりしびれましたよ〜笑



パンケケ試作品の際に協力してくれた和香奈さんが通っている大学の学園祭へ今年の秋、行きました。天気も良く、広々としたキャンパスにサークルの出店がでていて感でした。サークル活動、学部などの研究内容の紹介等派手さは、ないけど堅実な大学と思いました。国際協力、地域活動についての関心も高く和香奈さんがサモアOB会の活動に参加されたのもなるほどと思いました。

藤田 和彦 元年1次隊 無線通信機

お店紹介（神谷バー）：<http://www.kamiya-bar.com/bar.html>



聖地！駒ヶ根訓練所



青年海外協力隊サモアOB会の皆様、日頃よりJICAボランティア事業をご支援いただきましてありがとうございます。カラフルなOB会報バックナンバーを拝見しますと、サモアと日本の友好親善に活発に取り組まれていらっしゃる様子や、世代を超えた婦国ボランティア同士の交流を楽しんでいる様子が伝わってきます。世代交代に苦しみOB会が多い中で、サモアOB会は若い世代も惹きつける魅力的な活動を展開しているようで、裏方として頑張っている方々を代表する。思いがけず駒ヶ根訓練所の

所長となりましたが、志を抱いて全国から集まった皆さんの旅立ちを支援することが、これまでお世話になった方々への恩返しになると信じて精いっぱい取り組んでおります。

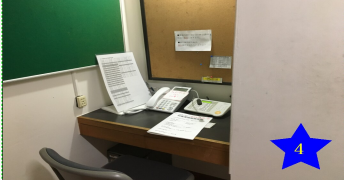
訓練終了前の所長講話では、「一人一人がJICAボランティア事業のオーナーである」とことを強調して伝えていきます。気楽な参加者ではなく、自立した「オーナー」として責任を持って活動に臨むこと、そのような態度こそが2年間の活動を唯一無二の体験にしてくれるのではないのでしょうか。そして、特に若い人に対しては、貴重な2年間の糧にして「志」を持って自分の人生を歩んで行って欲しいと願います。

駒ヶ根訓練所では、私の着任後、2016年度1次隊から2017年度4次隊までの2年間で30人がサモアに旅立ちました。そして昨年（2017年）、累計の修了者数が2万人を突破しました。こんなに多くの方が無事に訓練を受けて来られたのも、地元理解と支えがあったからだと思います。さらに、来年度（2019年）には開所40周年を迎えます。今年3月の青年海外協力協会（JOCA）本部の駒ヶ根移転で、駒ヶ根のJICAボランティアOB人口は一挙に増えました。サモアOB会の皆様も、機会がありましたら、「協力隊の聖地」である駒ヶ根に里帰りしてみたいかがでしょうか。

サモアOB会のご発展と、サモア隊員・OBの皆様の健勝をお祈りしております。

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所
所長 清水勉

懐かしの場所です
さてどこでしょう？



答えは最後のページ



高井優美 平成25年度1次隊 小学校教育

今年も協力隊やサモアOB会の活動を普及するためにサモアOB会カレンダーを作成しました。今回はOB・OGからの写真だけでなく現地でも活動している隊員からも写真を募集し、多くの方々の協力を経てカレンダーが出来上がりました。今年は壁掛けタイプのため、どこにでも掲示しやすいものになりました。

今回のカレンダーはOB会だけでなく、若い世代に幅広く国際協力に興味をもってもらうために、教育従事者であるOB・OGに声をかけ、積極的に送付しました。おかげで小学校から大学まで幅広い学校関係にカレンダーを送り掲示してもらいました。

さらには、カレンダーをきっかけにサモアを紹介したり、自身が行った活動について話をしたりすることによって、子どもたちにもサモアという国や協力隊について印象づけることができました。今回の実践がカレンダー作成事業の新たな社会還元へと繋がったように思います。

今年も協力隊やサモアOB会の活動を普及するためにサモアOB会カレンダーを作成しました。今回はOB・OGからの写真だけでなく現地でも活動している隊員からも写真を募集し、多くの方々の協力を経てカレンダーが出来上がりました。今年は壁掛けタイプのため、どこにでも掲示しやすいものになりました。

日本全国サモア化プロジェクト



各地でOB・OG

がサモアや国際協力を知ってもらうための授業を行っています。どんな授業か聞いてみたいですね。次回は授業のレポートが出来たらよいな。

サモアってどんな国！
国際協力って何！



校長先生にお渡しして、その後、上田千曲高校の図書館に飾らせていただいています。（生徒の様子、及び校長先生も快く写真撮影に応じていただきました）受け持っている授業では、時折サモアのことを話したりもしていますが、やはり今回のカレンダーのように、実際に形になったものがあると、生徒もよりサモアに興味を持つかもしれません。上田千曲高校には、福祉科があったり、ボランティア班があったりして、開発途上国や、様々な困難を抱えながら生きる人々への関心が高い生徒が比較的多い学校だと思います。図書館は生徒みんなが使う施設ですので、私も時々顔を出して、その場にいる生徒に話をしたりして、少しでもサモアと日本を繋げる活動が出来ればとおもいます。

梅田力（平成23年度4次隊 美術）



校長先生 faafeati lava!



OB・OGの皆さん本当にありがとうございます。



担任している3年生は家庭学習期間に入ってしまい、教室に来ないため とりあえず物理室に貼らせていただきます。
小林祐輝（平成22年度3次隊 理科教師）

6年生のクラスに飾ってもらいました。合わせて社会の授業で青年海外協力隊とサモアの体験を話しました

小林信行（平成元年度2次隊 柔道）

本学では例年、サモアとの間を隔年ごとに行き来する実習を重ねてきました。学生たちはサモアが大好きになり、一昨年に夏に渡航した学生たちが、今、卒業旅行でふたたび自腹でサモアに旅行したりしています。大学が旗を振るだけでなく、こういった学生たちの力を信じて応援していきたいです。カレンダーを活用してサモアをぜひアピールしたいと思います。

長野県看護大学 宮越幸代



今週、6年生の授業を2クラス実施しました。協力隊の紹介をメインにして、サモアの様子や私の活動も少し話しました。子どもたちの感想には、サモアの文化は日本と全く違っていてもいい、海外は治安が悪いと思っていたけどサモアは違った、協力隊が訓練を積んで活動しているのがびっくりした、などがありました。今回はあまり詰め込まず、子どもたちからの質疑応答も入れましたので、あまり深くは話していませんが、直に話を聞いたことでのインパクトはあったみたいです。

藤原岬（平成26年度1次隊 小学校教育）



現役ボランティア紹介

エンジョイサモアンライフ

現在も多くのJICAボランティアがサモアで活動しています。随分とバラエティーに富んだ派遣先になっています。今回現役隊員から寄せられた原稿、そして写真を見ると皆さん異文化に戸惑いながらもサモアの生活を楽んでいることがわかります。何しろ笑顔が素敵なサモア人以上に良い顔で写っています。



田畑梨杏里
(2016-2 障害児・者支援(パルリカ・ツカサ))

心豊かで、優しく、フレンドリーで、1回会ったら家族になってしまうようなサモア人の人柄に助けられながら1年が過ぎました。外人の小娘が言っていることを素直に受け取って協力してくれることには、不思議な気持ちになります。去年からサモアOB歯科医師の浦崎さんと、現役J.V.歯科衛生士の織田さんに協力してもらいながら障害児に対してフッ素を使った虫歯予防をはじめました。今年これを継続することと、普及することを目



佐藤恵利 (2016-3 日本語教育 サモア国立大学)

サモア国立大学で活動を始めて、あっという間に9ヶ月が過ぎてしまいました。日本語クラスの学生は勉強熱心で明るく、最近自身で日本語クラスを私にネットワークが広がりは、大学関係者以外の人々とも交流する機会が増えてきました。大学内での日本語指導という活動以外にも様々なことにチャレンジできるよい機会です。いろいろな場でも日本をアピールしたいなと思います。



慶野結香
(2016-3 学芸員 サモア国立博物館(7ルア))

Tofuの教育入門ツ文化省にあるサモア国立博物館に派遣され、博物館の展示や収蔵品管理の改善、教育普及活動としてのワークショップやイベントの実施などを行っています。来館者は海外からの観光客も多く、サモアの顔ともなり近代史や文化芸術環境などについて紹介する重要な施設だと思うのですが、現在職員はボランティア以外に2名しかおらず、運営やスペース不足の問題なども抱えています。着任した当初はいろいろ改善していくべきか焦っていたのですが、サモアのゆるりとした時間のなかで、人々のリズムに合わせて、ものごとが動きそうな瞬間に勝負をかける術を見出しつつあります。ぜひサモアに帰ってらっしゃる際には、お立ち寄りください！



鎌賀大輝 (2016-3 小学校教育 サパパライ小学校)

サモアで活動して約1年になる鎌賀です。2年のうち半分が終わり、少し落ち着けます。サモアの生活は非常にゆっくりしていて、さらに隊員が少ないサバイイ島に住んでいることもありギターを始めた、読書が進んだりかなりマイペースに拍車がかかっています。活動の方はぼちぼちといったところで、報告することは特に何もありません。笑 この間サモアの珍珠パロロを家族と取りに行ったのですが、とても美味しくなかったです…見た目はミズのような。バターで炒めてタロと食べるんですが、炒めた瞬間に色が黒から緑に変わります。なんでサモア人はあのミズに躍起になるのか不思議でした。それでも一年に一度のみ。残り1年となった活動。これからの1年はより深化した活動と今後の自分の進路も見据えた生活を送っていきます。



現役ボランティア紹介

こんな時代が我々にもあったのだなとつい思い出に浸ってしまいます。自分の人生においてかけがえのない2年間を過ごしたサモア。我が心のふるさと！ たまには里帰りしてみたいな。



西山小晴 (2016-4 水泳 サモア水泳連盟)

私はサモアへの派遣が決まった時、サモア？何それ？美味しいの？と聞きそうになるくらいサモアのことを知りませんでした。そんな私もサモアに来て8ヶ月が経ち、今ではこの国が結構好きです。サモア人はニコニコ優しい、のんびりしてて、いつも何かを食べています。いつも何かを食べているのは私と同じですが、それ以上可愛くて、見ているとほっとします。そして明日も頑張ろう！という気持ちにしてくるのです。

移動時には欠かせない、懐かしのピックアップ。遠方からやってくる雨雲と競争したり、島内観光をした記憶が思い出されます。



大塚未来 (2016-3 小学校教育 Salelavalu (サレラバル) 小学校)

まをみとれがるまみ吸合てそてそい善の小て合吹村よの経遣
す考ん愛たらそまんをわいれきこす。授生校暮うかの風任とさ常
えならよ`のにな合せまはたま。業たににうよれみ心地うれ夏
てのしう常姿受。わ`す毎1み。1年とつち派してにかな心はとての
い為いな夏にけすせ周。日1なと共さ。助身そ村らまぐサ
きに笑温の真入べなり大色1なと共さ。助身そ村らまぐサ
たで顔か太だれてがの陽々動色あみ重ね、改地、
いきをな陽さよをら人のなが積をにれ、私けをので吹す1ア
とるく眼にをうあ暮々動色あみ重ね、改地、
思これ差育みとりらときをり重ね、改地、
いとるしまなすのす呼にし



志川いづみ (2016-4 公衆衛生 サモアファミリーヘルス協会)

サモアに赴任し、あっという間に半年が経ちました。お喋りして大笑いし、食べて飲んで、休んで寝る。そんなサモアの生活にも慣れた。配属先では、妊婦健診・家族計画を中心としたクリニックで4名の助産師と共に活動しています。また、月に数回遠隔地へモバイルクリニックに出かけた後、小学校・中等学校へ向かい保健に関するプログラムを行っています。日本の医療とは違った環境や常識、驚くことも多いですが、サモア人の適応力の高さや発想力など、私自身、現地の人々から学ぶことが多いと感じています。残りの任期中も、健康に過ごし、楽しみながら活動に励みたいと思います。日本の美味しいご飯、待っていてね！



山崎航 (2016-3 小学校教育 Ave 小学校)

雨は夜更け過ぎに雪に変わってないかなと期待を寄せて迎えた、クリスマス。雲ひとつない晴天で、みんな一緒にウムを食べ、不思議な物体が食卓に並んでいた。黄色の卵のようなものを確認し、1つだけ口にいった。普段はお出かけをしない僕の家族だが、クリスマスは特別と言わんばかりに子ども達を連れて、Anu water fallに連れて行ってくれた。5mくらいの高さから飛び込むスベースがあるのだが、子どもにけしかけられ、波々、青空ジャンピングハート(飛び込み)を決め、顔を打った。こんな生母を送っている。最近少しだけだけど、サモアについていかもって思えるようになってきた



現 役 ホ ン テ イ ア 紹 介

4ヶ月サモアに赴任して早くも慣れた生活が、毎日自分なりに楽しんでいます。サモアは、先住民と日本人の混血者が多く、文化や生活習慣が日本と異なっています。しかし、サモアの人々は非常にフレンドリーで、日本人を歓迎してくれます。私もこの経験を通じて、サモアの人々と友達になり、多くの思い出を作りました。



桐原千晶 (2017-1 体育 Leififi College)

楽

し

サモアの文化や人々に触れ、そのたびに自分がどれだけ日本を好きか、痛感する毎日です。今はただ、日本のキーンと寒い冬の朝が恋しいです。サモアはつつこみどころが多い、ちよつと趣味の悪い車の裝飾とクラクションの音、脇の下があきずぎのタンクトップ、やたら何度も写真を撮られたがる自意識炸裂の人々、スピーカーで音楽を流しながらどや顔で歩いてくる若者…。もはやこちらを笑かそうとしているとしか思えないので、笑っています。これからは頑張りな驚きに出会えるのか楽しみです！



阿賀文郡 (2017-1 体育 バイマウガカレッジ)

が

毎

日

い

サ

モ

ア



野沢有加 (2017-1 小学校教育 Faleula 小学校)

「とつても平和でのんびりしている国」私を感じるサモアの印象です。日本では常に何かしら「やるべきこと」が存在して、休みの日にも何かやらないと気が済まない、そんな生活でした。サモアの大家族と生活が始まり半年。のんびり過ごすことに違和感を感じなくなってきました。既に帰国後は日本の社会に適應できる自信は全くありません。しかしまだ一年以上サモアで活動が展開されるので、今は帰国後のことなど考えずに、どんどんサモアナイズされて活動をエンジョイしていきたいと思っています。そして帰国後、忙しさの荒波にもまれながらも「サモアに行けてよかった」と思えるような協力隊員ライフを送りたいと思います。

サモアに来て5か月。活動も順調に進んでおり、子どもたちも元気です。毎日学校に通い、勉強も頑張っています。サモアの生活は、朝早く起きて学校に行き、授業を受ける。帰国後は、朝早く起きて学校に行き、授業を受ける。サモアの生活は、朝早く起きて学校に行き、授業を受ける。サモアの生活は、朝早く起きて学校に行き、授業を受ける。



松川博明 (2017-1 理科教育 Sagaga collage (Afega))



現役・志・巧・ン・子・イ・ア・紹・介



根岸浩章 (2017-1 小学校教育 アフェカ小学校)



兼城 涼香 (2017-1 小学校教育 サオルアフタ)

活動先の透析センターは主に人工透析を行う施設で、約100人の患者さんが通院しています。患者さんと関わる中で、サモア人は食生活がとても好きで、好きたるを日々感じています。好きなものを食べるのは、サモア人にとって大切なことです。食生活を変えてみるのは大変な事ですが、少しでも栄養や健康に関心を持ってもらえれば、少しも長く健康に、サモア人の眩しい笑顔で過ごす時間を分かち合いたいと思っています。

サモアはとて暮らしやすい国だと感じてます。その理由のひとつは、サモア人がとても親切でフレンドリーだからです。学校までの道を歩いていると、必ず村の人と挨拶をし、笑顔で迎えてくれます。日本人にはない文化も、毎日学校に通うシエアの文化も、アタマで考えること、サモアの人から活動を進めていき



木村とも子 (2017-1 小学校教育 サレアウラ)



とにか「デカイ」。それがサモアの第一印象でした。バスに乗っても村を歩いても、みんな、デカイ。身ももっているかのようなパンパンに張ったお腹に、ぼくのが2つは入るだろうというお尻。そういつた体のデカさはもちろん、心もデカイ。バスに乗ると見知らぬ他人の赤ちゃんでも抱っこしてお母さんを助けたり、遊びに行ったらご飯を振舞ったりしてくれる。純粋に素敵だなと感じます。到着して約半年が経ち、そんなサモアがだんだんと好きになつていきます。「デカイ」ことは成せないかもしれないけれど、自分が関わる人たちに何か良い影響を与えられる2年間にはしたいです。

首都アピアから船とバスを乗り継いで約5時間の場所にある、サバイ島のサレアウラ小学校で活動をしています。街と離れている分サモアの伝統的な文化が色濃く残り、時間がもつとゆっくり流れているように感じます。バスの本数が少なかつたり、野菜がなかなか手に入らなかったりして不便なこともあり、いつも笑顔で優しいサモア人がたくさんいるこの任地をとて気に入っています。



大山由佳 (2017-1 栄養士 国立腎臓センター (National Kidney Foundation Samoa))



OB会紹介

1994年に発足した当サモアOBは、現在JICA及びJOCA公認の正式なOB会として運営しています。メンバーはサモアに派遣された青年海外協力隊、シニアボランティア及び専門家のOB・OG、そしてサモア・JICA関係者などです。また近年学生や社会人などで構成するチームサモアのボランティアの方々が加わりパワーアップしています。活動は、協力隊まつりやグローバルフェスタの各種イベントへの参加、カレンダー及び会報の作成や歓送迎会の開催やウェブサイト、SNSやメールを通じての情報発信などです。さらに最近ではJICAボランティアや国際協力に興味を持つ方々の発掘や育成にも力を入れています。

- ウェブ：http://www.fafetai.net/
- メーリングリスト：vailima-fafetai.net@fafetai.net
※要事前登録
- メールアドレス：samoa@fafetai.net
- FB：「サモアOB会」で検索してください。
- OB会事務局：〒115-0042 東京都北区志茂2-58-11

ゆかいな仲間募集中！

当OB会では、サモアに対する想いや経験を共有しながら、共に活動を盛り上げてくれるメンバーを大募集中です！ボランティアはサモアのOB・OGのみならず、サモアに少しでも興味や関心がある方であればOKです。また老若男女問わず、新しい発想や経験・想いを持った人材が必要です。堅苦しいことは一切なく、常夏のサモアらしいゆる～い感じで運営していますので、是非一緒に心地よい汗をかいて達成感を共有した後、クーーーと行きませんか。まずは軽い気持ちで顔を出すといったくらいでも構いません。またOB会の活動に対する積極的なご意見やアイデア、提案などもお待ちしております！【事務局】

編集後記

OB会役員に関わってからももう6年以上経ちますが、壮行会で送り出した隊員たちが、任期を終えて次々と帰国してきて月日の流れを感じます。会報やFacebookを通じ、現地の様子や皆さんの活動を見ていると、ついついサモアが恋しくなってしまうですね。私事ですが、今年は娘が生まれ、今はまだ旅行にもなかなか出かけられませんが、いつか子どもが大きくなったら、家族3人でまたサモアへ遊びに行きたいと願う日々です。
木村竜輔（平成21年度2次隊 理数科教師）

平成29年度会計報告

本年度も皆様からの会費のご支援ありがとうございました。収入では多くの方々にご支援をいただいておりますが、グロフェスでの売上の伸び悩み、加えてJICA助成金が先方予算事情によりかなり減額を強いられました。このためカレンダー作成事業などの経費を削減し対応しました。引き続き、節約に努めますが来年度の状況は厳しいものになります。

なお、以下決算見直しには会報作成事業費は含まれていません。

【大塚一雄 昭和63年度3次隊 SE】

収入	金額	支出	金額
会費	210,000	通信費	17,829
事業収入	69,100	事業費	169,616
助成金	235,356	JOCA会費	31,416
寄付金		雑費	216
小計	514,456	小計	219,077
前年度繰越	586,117	次年度繰越	881,496
合計	1,100,573	合計	1,100,573

上記は決算見込み額です。











アクセスして
みて下さい！！

登
録
し
て
ね

聖地 駒ヶ根の回答はこちら↓

- ★ 女団協展示室（各国の民族衣装が展示）
- 2 女団協階段（食堂方面へ）
- 3 食堂（美味しい食事ありがとう！）
- 4 放送室（毎日の日常まして苦勞様）
- ★ 図書室（自習机）
- ★ ランドリー
- 7 図書室書庫（OB会冊子も蔵書となりました）